

反面、本来の戦勝日であるはずの八月十五日に儀式は一切催されない。戦後台湾に来た国民党政権がこの日を意識的に忘却しようと、こうした奇妙な対照が起きたのである。

五十年もの間、日本の植民地支配を受けてきた台湾人は、終戦の玉音放送を耳にして、解放感を味わいもしたが、地に伏して涙も流した。「祖国日本」を



三

智慧

文化人類學者

十月二十五日、台湾では「光復節」と呼ばれる祝日が催された。一九四五年、最後の台湾総督だった安藤利吉から降伏文書

信じ続けてきた純朴な旧日本軍の証言では、「当団は全部隊が不安と焦燥と悲嘆のどん底、目標も展望も何もない」という状

た問題には一切知らない顔を通り抜けているようだと思える。

満人として生まれた悲劇」そのものである。終戦記念日の靖国参拝が、内 外で今年ほど騒がれたことはな めの年になつて、既落した。だが、日本側が定めた期限が 切れた後は、日本政府は沈黙するのみである。年老いた旧日本

文部省が
国籍が違つたと理由とする
人権の不平等。国交がないこと
を口実にした公式接触の拒否。
合意にいう項目を、一つづきに

台湾人「さよなら」が用

「」の上にあり、翌には自殺者も出。衝撃はそれほど大きく、台湾の人々に終戦を忘れさせることなく、である。必ずもなかつた。そもそも、米国を始めた戦勝国の発想執行された終戦処理民族の支配は受けあらへる。新しい支配者との衝突が起きたので、日本のシンパではなく、いかと疑われ、疎外された。このような構図は、世界の他地域のポスト・コロニアル（植民地後）の状況とは随分異なる。日本が台湾人の心に落とした影は、今も消えてほいない。終

かこない。小泉首相が参拝の際に触れた「家族や国のこと」と思い戦争に行かざるを得なかつた」人たちは、実は台湾にも「十数万人いる。彼らは日本人として「お国」のために戦い、三万人以上が命を捧げた。^{（略）}しかし、戦後は国籍が違ひと いう理由だけで、日本人と平等の待遇を受けられないでいる。人の悲情は、金銭だけで償えない。日本政府、そして台湾政府も、彼らのトラウマ（心の傷）をいやす策をほんとうにしていかない。

△ お耳にが納得でござるお仕合の方を再考すべきだつたり。そうしない限り、日台関係も、そして中台問題も原点を掌握すべし」と述べた。

理は、後々まで多くのことらを残した。敗戦によって、結果的に日本は、台灣支配権の放棄を宣言したのみで、その後の支配者がだれになるのか、住民がい

戦の日から光復までの二か月余り、台湾人は解放から接收までの追体験を毎年繰り返し、アイデンティティの「さまざま」な時間」を過ごす。彼らの心情は、元軍人や軍属の待遇、戦時賃金といった戦争の罪責は、民間の努力でようやく追認されるようになり、戦後五十年余りも負った「債務」へと結びつく。自分たちは、二二八が最も

北支那への反撃があつたが、語られた、その姿勢は韓国政府に説得された。日本がこれほど何度となく韓国に謝罪したことなど、とは周知の通りである。台灣のことを討する態度をもつて

かにたゞ小泉首相が参拜の際に触れた「家族や国」のことを思い戦争に行かざるを得なかつた」人たちは、実は台湾にも一千数万人いる。彼らは日本人として「お国」のために戦い、三万人以上が命を擲げた。

しかし、戦後は国籍が違つていう理由だけで、日本人と平等の待遇を受けられないでいる。

靖国問題との関連で、当初、相当困難視されていた小泉首相の中国と韓国への訪問は、反日口という國際潮流に乗る形で、簡単に実現した。韓国では植民

人の懲罰はない。日本政府、そして台湾政府も、彼のトライアル（心の傷）をいやすくをほんとうに示していない。

△ お耳にが納得でござるお仕合の方を再考すべきだつたり。そうしない限り、日台関係も、そして中台問題も原点を掌握すべし」と述べた。

かにたゞ小泉首相が参拜の際に触れた「家族や国」のことを思い戦争に行かざるを得なかつた」人たちは、実は台湾にも一千数万人いる。彼らは日本人として「お国」のために戦い、三万人以上が命を擲げた。

しかし、戦後は国籍が違つていう理由だけで、日本人と平等の待遇を受けられないでいる。

靖国問題との関連で、当初、相当困難視されていた小泉首相の中国と韓国への訪問は、反日口という國際潮流に乗る形で、簡単に実現した。韓国では植民

人の懲罰はない。日本政府、そして台湾政府も、彼のトライアル（心の傷）をいやすくをほんとうに示していない。

△ お耳にが納得でござるお仕合の方を再考すべきだつたり。そうしない限り、日台関係も、そして中台問題も原点を掌握すべし」と述べた。

かにたゞ小泉首相が参拜の際に触れた「家族や国」のことを思い戦争に行かざるを得なかつた」人たちは、実は台湾にも一千数万人いる。彼らは日本人として「お国」のために戦い、三万人以上が命を擲げた。

しかし、戦後は国籍が違つていう理由だけで、日本人と平等の待遇を受けられないでいる。

靖国問題との関連で、当初、相当困難視されていた小泉首相の中国と韓国への訪問は、反日口という國際潮流に乗る形で、簡単に実現した。韓国では植民

人の懲罰はない。日本政府、そして台湾政府も、彼のトライアル（心の傷）をいやすくをほんとうに示していない。

△ お耳にが納得でござるお仕合の方を再考すべきだつたり。そうしない限り、日台関係も、そして中台問題も原点を掌握すべし」と述べた。

かに小泉首相が参拜の際に触れた「家族や国」のことを、「戦争に行かざるを得なかつた」人たちは、実は台湾にも一千数万人いる。彼らは日本人として「お国」のために戦い、三万人以上が命を擲げた。

しかし、戦後は国籍が違つていう理由だけで、日本人と平等の待遇を受けられないでいる。

靖国問題との関連で、当初、相当困難視されていた小泉首相の中国と韓国への訪問は、反日という國際潮流に乗る形で、簡単に実現した。韓国では植民

人の懲罰はない。日本政府、そして台湾政府も、彼のトライアル（心の傷）をいやすくをほんとうに示していない。

△ お耳にが納得でござるお仕合の方を再考すべきだつたり。そうしない限り、日台関係も、そして中台問題も原点を掌握すべし」と述べた。